

# 厚生労働省：平成18年度 障害者保健福祉推進事業

## 障害者自立支援調査研究プロジェクト第2次

### 1.事業実施報告書

#### ①事業名

知的・精神・発達障害者の「専門的就労（＊下記参照1）」形態を確固たるものとするための

『アートパトロネージ（＊下記参照2）』開発・展開事業。

―企業等が障害者の専門的就労を支援するシステムの構築を試行するプログラム―

（＊1）「専門的就労」とは、一定の雇用関係によらず時間に束縛されないで、特別な技能・技術・知識に基づき独立して営む職業と定義する。例えば画家・音楽家・舞踏家など。

（＊2）『アートパトロネージ』とは後援者・支援者という意味である「パトロン」が、アーティストの作品制作活動や展覧会などの発表事業を精神的・財政的にサポートするシステムのこと。この場合の「パトロン」とは、芸術・文化に対して造詣が深い、国内外の個人・企業等を指す。サポート内容としては、障害のあるアーティストが精神的に安定して作品制作を行える環境を整備する事に加え、作品を企業広告等に使用したり、企業タイアップ展覧会の開催、その開催のための渡航費・作品輸送費、画集出版、画材の調達など財政面でのサポートが挙げられる。

#### ②事業実施目的

「専門的就労」を実現する為には海外/国内の文化度の高い企業のパトロネージが必要不可欠である。精神的・財政的な支援を行うパトロンの確保により、知的・精神・発達障害のある人が「障害の属性」ではなく「アート作品で勝負」できることをめざす。

#### ③国庫補助精算額

5,000,000円

#### ④事業実施期間

平成18年11月から平成19年3月まで

#### ⑤事業実施場所

東京/電通

#### ⑥事業内容

##### 1 国内/トーク・セッション（東京：電通）

世界を代表する広告会社の電通にてシンポジウムを開催。アトリエインカーブのアウトサイダー・アートを紹介。その作品性に重点を置きながら『アートパトロネージ』の意義と必要性を、文化度の高い企業やアート・デザイン関係者、メディア関係者等を中心に周知する。

開催時期：平成19年3月14日

パネラー：社会福祉法人素王会 アトリエインカーブ 今中博之理事長・施設長

現代美術家 日比野克彦氏、脳科学者 茂木健一郎氏

司会：インディペンデント・キュレーター 飯田高誉氏

アーティスト・ライブ：インカーブアーティスト 寺尾勝広氏・新木友行氏

対象者：電通社員、企業 CSR 担当者、メセナ協議会員企業、美大・一般大学美術関係者、美術館・ギャラリー関係者、美術誌関係者、新聞社・雑誌アート担当者、行政機関関係者等

●国内/エキジビション（展覧会）（東京：電通）

アトリエインカーブのアーティストによるライブアート（会場での作品制作）と作品展覧会を開催。

開催時期：平成 19 年 3 月 14・15 日

アーティスト・ライブ参加作家：寺尾勝広氏・新木友行氏

作品出品作家：寺尾勝広氏・新木友行氏・湯元光男氏・武田英治氏・吉宗和宏氏

\*尚、NY メトロポリタン美術館よりご紹介を受け、平成 19 年 8 月～10 月にはワシントンの外務省管轄日本大使館広報文化センター「Lafayette Centre III」にて大規模なインカーブ展覧会を予定しており、この事業の継続性を大いに探ることができるものと考えられる。

⑦事業の効果及び活用方法

知的・精神・発達障害者における「専門的就労」については、本人の能力・特性にあった自立支援を行う事ができるものとして、いわゆる「一般就労」「福祉就労」のみに頼るのではない、新しい就労形態であると提示した。この「専門的就労」を確立させるためには、障害者自立支援法に基づくサービスだけでなく、独自の支援態勢が必要である。それが『アートパトロネージ』である。一般的なアートの世界では、アーティストが制作する作品がいくら素晴らしいものであっても、作品制作環境が整わず、作品発表をするための手段や方法がなければ、日々生活していくのに手一杯になってしまい、自立する事が困難である。本事業では、文化度の高い海外/国内の企業等がパトロンとなり、創造的才能のある知的・精神・発達障害者が「専門的就労」により自身でアーティストとして独立するために『アートパトロネージ』構築を目指す。また、2 次プログラムにおいても、市立金沢美術工芸大学は美術工芸研究所・地域連携センターの連携活動として参画、インターンシップ制度も継続させた。アメリカ・ニューヨークでは、アウトサイダー・アート（\*1）が一つの美術潮流として認知され市場が確立している。個人・企業を問わず、芸術に対する意識が高い事もあいまって、その作品は非常に高額で取引され、年間を通して多くのギャラリーで展覧会が開催されている。本試行訓練プログラムでは、アトリエインカーブの 5 名のアーティストを「日本のアウトサイダー・アーティスト」として、東京・電通本社の 1 階電通ホールでエキジビションを行った。さらに、アーティスト寺尾勝広氏・新木友行氏によるアーティスト・ライブ（会場で作品制作を行う）により、作品ができあがっていく過程をアーティストのそばで体験し、来場者の方にその湧き上がる創造性を肌で感じてもらうことができた。特に、アーティスト寺尾勝広氏についてはニューヨークでもその作品性を認められ、作品販売額も年々上昇している。彼は、一人のアーティストとして独立の道を一歩踏み出したのだ。

広告会社として世界のトップランナーである電通の本社で寺尾勝広氏はじめアトリエインカーブのアーティストたちのエキジビションを行うことにより、日本の名だたるアーティストや企業 CSR 担当者、メディアなどの発信源となる人々はもちろんのこと、文化度の高い企業関係者に作品を観てもらい、日本のアウトサイダー・アートについての造詣を深めてもらった。同時に、『アートパトロネージ』についてシンポジウムを行う。社会福祉の側面からは、社会福祉法人素王会 理事長 今中博之が、知的・精神・発達障害のある人にとっての「専門的就労」の意義とアート・パトロンの必要性を説き、現代美術家 日比野克彦氏と脳科学者 茂木健一郎氏をパネラーに迎え、インディペンデント・キュレーターの飯田高誉氏が司会となって、アウトサイダー・アートの市場への発展性とこれからの展開の可能性についてディスカッションを行った。来場者は企業 CSR 担当者や電通社内

クリエイター・メディア関係者・行政機関関係者など、定員 200 名のところ大幅に上回る約 260 名の方に集まっていた。日本におけるアウトサイダー・アーティストへの理解を深め、企業等が展覧会を主催したり、企業広告などに彼らの作品を使用し製作することにより彼らの活動を支援すれば、「専門的就労」により独立することへと繋がる。芸術的才能のある知的・精神・発達障害の人たちが『アートパトロネージ』によって独立への道が大いに開く事ができると期待されるべき事業であると考え。会場で展示した 75 点の作品の中には値段をつけたものもあり、予想を大きく上回る人数の方が購入して下さった。作品の収益はすべてアーティスト本人に還元される。展覧会の開催を提案して下さる企業もあられ、このエキジビションとトーク・セッションは『アートパトロネージ』の大きな一歩となった。

本試行訓練プログラムでは、国内におけるアウトサイダー・アートの認知を深めることで、企業のメセナ活動・社会貢献活動が広がる事を触発したいと考える。バブル崩壊とともに一度は下火になってしまった企業のメセナ活動であるが、金儲けだけではない、社会の一員として企業がどうあるべきかが問われ、再び見直されている。企業では CSR（企業の社会的責任投資）への取り組みが本格化し始めており、アウトサイダー・アートに対する『アートパトロネージ』は企業の社会貢献にも大きく繋がるであろう。エキジビションとアーティスト・ライブを開催するとともに、トーク・セッションを行うことで、アウトサイダー・アートの周知と、企業としての支援の在り方について考察してもらうことができる。これまでの企業からの支援は金銭面に偏りがちであったが、精神的・財政的にバランスのとれた支援というものを問いかけ、また、「障害があるから」支援をするのではなく、作品がもつ素晴らしさを理解し活用したいから創作活動をサポートすることを基本とし、今後も『アートパトロネージ』構築の理念としていきたい。

今回の電通との共催によるエキジビション&トーク・セッションは、まさに電通による『アートパトロネージ』とっていいだろう。民=企業・個人の方には、アウトサイダー・アーティストたちの作品性を社会に認知してもらう場と機会の提供や、広告媒体などにその作品を採用するという、芸術を育てるアートパトロネージを、公共=福祉・労働・教育機関には障害ある人の生活保障と新しい働き方や新しい教育体制をつくるという、彼らの社会生活を守るアートパトロネージの役割を担ってもらえるよう、これからも発展・展開させていく。

来年度にはワシントンの外務省管轄日本大使館広報文化センター「Lafayette Centre III」にて大規模な展覧会を予定しており、本事業で築いた『アートパトロネージ』の第一歩を基礎にして、今後更なる発展を目指すものである。

\*1 アウトサイダー・アートとは、正規の美術教育を受けていない者がつくりだす芸術作品を指し、結果として知的障害者・精神障害者・霊媒師等がつくる作品を指す。欧米ではひとつの芸術分野として確立しているが、日本ではまだ「障害者がつくった」作品という前書きがついて語られることが多い。純粋に作品の評価を得ようとするとはやはり本場はニューヨークやヨーロッパであろう。